

#### INTRODUCTION

## Target Area \_ 横浜市鶴見区生麦5丁目 / 国道駅

国道駅は、昭和期を見てきたといっても過言ではない駅である.

期には京浜工業地帯の公害も顕著化した場所でもあった。

# Back Ground \_ 疎遠なまち

国道駅は,歴史的背景,周辺地域との兼ね合いの観点から商業を中心とするのは難しい.居住 // スペースは,高架下の1軒当たりの建築スペースが狭小であり,住宅・住民ともに高齢化が進ん でいるため、次の世代へ住宅として引き継ぐのは不可能である.

長年,国道駅は,駅本屋を住宅として使用しており,公共性が極めて低く,閉塞感を強く感じる. さらに駅周辺地域の空き地の多くは、パーキング化され飽和状態になっている.しかし、公園 や集会所などと言った住民のためのスペースは確保されず乏しい. これらの影響により, 周辺 住民は国道駅への意識が薄れ、国道駅の歴史的価値に気づかず駅を利用している.近年は、 新たに国道駅周辺に移り住んできた人が多いため住民同士の関係性も希薄になってきた.



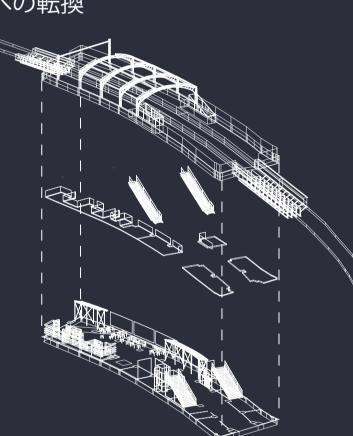
#### CONCEPT

#### Theme\_ モノからデキゴトへの転換

国道駅は幾度かコンテンツが埋め込まれ いずれも当時は噛み合っていたが,現状で はすべて衰退している. そこで従来の「モノ」 のやりとりから、「デキゴト」のやりとりが行 われる場面へと転換する.

地域住民の意識が駅に向き始め,生活の要 素となり,駅が「活きて」くる この駅が, さらに住民のモチベーションを上 げ,相互に影響する関係が築かれる

駅は3層から成る. 低層部は地域住民同士 の活動の核となるスペースを確保. 中層部 は低層部と異なり、ゆとりある落ち着いた空 間を創出.高層部はJR鶴見線としての交通 の役割を果たすプラットフォームを拡充. 駅 の本来の役目である駅機能に加える. 地元 住民の活動に適した機能を有する,新たな 駅となる.



#### STRUCTURE

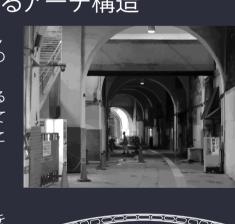
### Symbol \_ まちを見続けるアーチ構造

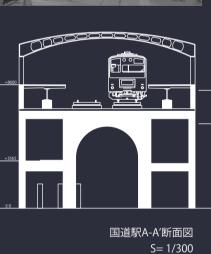
近年,駅には利便性や効率性が求められ 商業・オフィス等を兼ね備えた複合施設の 整備が進んでいる.

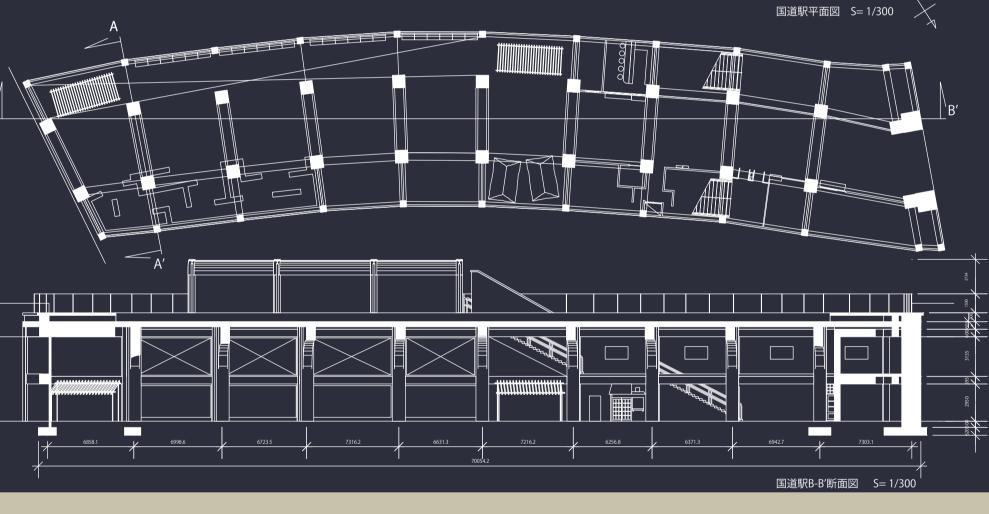
しかし, 国道駅は異なる. 住民が主役となる コンテンツを配置しつつ,変わらぬ姿で見る きたアーチ構造という駅の骨格を活かする とで駅の存在意義が認識される

撤去し、また2階の一部を吹き抜けにするこ 《とでアーチ構造の連続性や存在感を強く印 』

このように国道駅を「いかし」続けることで 構造物の美しさが受け継がれる. そして, 土 木資産として駅に更なる価値を見出す.シン 🛂 ボルであるアーチ構造は、この先もまちを変 わらずに見続ける.







#### **REGIONAL PLANNING**

#### (()) 波及 国道駅から地域の再編へ

まず国道駅高架下を使われる空間を構築し、エリア価値 向上を図る. そしてその効果が周辺地区へと波及する. 住 民主体のまちづくりを展開して地域を再編する.

#### ※継承 これまでとこれからの積み重ね

弾痕の残る外壁や高架下の居住空間を地域の資料館と し、使われる空間となることでアーチ構造の価値を高め る. また, 地域活動の成果をショーケースに残していく.

## 駅機能 衛生面の改善と快適性の向上

劣悪なホームへの階段や手すり、トイレの衛生環境を改 善して駅機能の改善を図る.また,高架下空間が待合室 の役割も果たし、鉄道利用者のついでの活動が起こる.

### ✓ 運営・製作 おとなが見守り、こどもが楽しむ場

高架下空間やイベント等を運営する組織を設け、こども たちの自由な発想から生まれる日常・非日常のものづく

# 学習・協働 黒板から生まれる様々なデキゴト

り補助も果たす. 地域ボランティアがその役割を担う.

地域住民が自由に使える大きな黒板と図書スペースを 設け、学生たちや住民たち自由に活動できる. 図書は持

ち寄り方式を取ることで自ら利用しやすい空間を創る.

#### 自発的なデキゴトを行う場

住民主体で自らチャレンジする場を創出する. 個人が考 えたもの,市民塾で考えたものの一つ一つを実現させ, 日々の暮らしに変化や刺激などの良い影響を与える.

# **METHODS**

# Tool\_ 黒板

住民がデキゴトを展開するための要素のひとつとして壁面に黒板を設置 する. この黒板は誰でも自由に書き込むことができ, 勉強・イラスト・地域 の話し合いの場に使うなど用途も様々である. 消されるまではそれまでの デキゴトが残り、消された後は新たなデキゴトが書き加えられる. 黒板に 書くことにより住民のさりげない日常・非日常が可視化される. 夜には黒 板が一日の場面を切り取り,ギャラリーの様な雰囲気を醸し出す.

# Program Title \_ 国道市民塾

住民が地元を思う熱意は魚河岸祭りや日曜朝市の新規開催,地域の盆 踊り大会の復活、そして実現には至らなかった生麦活性化プロジェクト による国道駅活用提案から読み取れる.しかしながら,一部の熱意ある 人たちだけに留まっていて、地域として共有できていない.

国道市民塾は、自分のまちを再認識し、魅力を分かち合うことを目的と して, 古くからの住民と新規住民, そして生麦・鶴見地域に根を張る地元 企業や教育機関がワークショップやイベントなどの活動を行う.

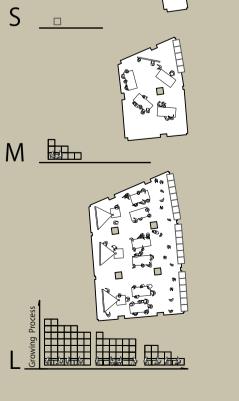
#### 駅の余白

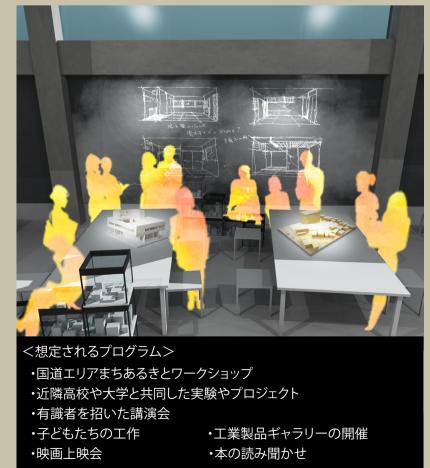
国道市民塾の活動は、まずは少人数でスタートする.しかし開かれた空 間となった国道駅で開催することでその活動は可視化される。また、黒 板に残った話し合いの跡やワークショップの成果品を収めるショーケー スが自然に活動を広報し、普段は鉄道利用のみであった住民や通行人 などの目を引き興味を持たせ、次第に参加者が増加していく.

黒板前の空間や本棚は活動規模に応じて可動するため,市民塾の参加 人数に柔軟に適応する. このような余白によって活動の上限を設けず, 持続的な活動ができる.



国道市民塾で活動した成果はショーケースに収 のほか,座れたり遊んだりする機能も有する.



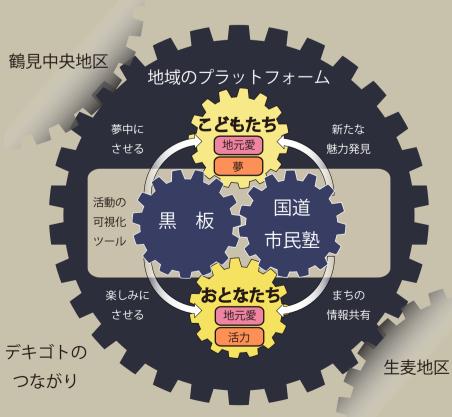


#### **EFFECTS**

# Daily Schedule

Local Relationship \_ 構築されるまちとのつながり





国道駅で展開する黒板と国道市民塾という2つの可視化ツールの存在がこども たちを夢中にして新たな魅力を発見し、おとなたちに楽しみを抱かせ、情報共有 の場になる. これが契機となり, 皆が夢や活力をもつようになる. また, 地域への 愛着も生まれ、「もっとまちを良くしたい」と思う原動力から周辺地域へ波及する. やがて,住民主体の持続的なまちづくりへつながる.国道駅が地域のプラットフォ ームとなり、デキゴトがつながることによって、活力のある空間へと変わっていく.

ACTERS \_ 一学び人一



周辺の学校に通う学生たち. ある日, 黒板の ある国道駅を訪れる. 互いに教えあったり, 黒板を使い一緒に考えたりする. 併設された 持ち寄り図書スペースに参考書があることで 日常的な学習スペースとして使い始める.



イラストを描きたい人. 自由に何でも描ける 場所として黒板のある国道駅にやってくる. 自分の趣味でなんとなく描いていたイラスト が見られていることに気づきもっと質の高い 黒板アートに挑戦し、自信を得ていく.



国道駅に毎日訪れる人々. 立ち話をしに訪れ た中でふと目にする黒板。朝は昨日書かれた ことを見つめ,昼間は今,目の前で行われて いることを見る. 夜は一日あったことを振り 返る. そしてまた明日が楽しみになる.



日頃から国道駅にいる管理・運営者.日常的 に黒板で行われる活動から地域活性化のヒ ントを得ている. そして時には住民に伝えた い事を黒板に書き出し、地域のみんなにそ れを議題に考えてもらう.